

# フィリピンのエネルギーシステムの移行における構造変化と権力関係の

## 相互作用

Phoebe Grace SACULSAN

*Key Words:* 再生可能エネルギー, 新興国, エネルギー移行

### 1. 本研究の目的と背景

本研究の目的は、フィリピンを事例として、新興国のエネルギー転換を探ることである。エネルギー転換は、石炭のような従来のエネルギーへのロックインと経路依存から脱却し、持続可能なエネルギー移行を可能にする方法を支えることを目的とした比較的新しい研究分野です。しかし、既存の研究では、エネルギー供給を増加させる必要性和気候変動との間に大きな緊張が存在するため、新興国にとってはエネルギー転換がより困難であることが示されている。そして悪質な社会政治的条件。

### 2. 研究方法

私たちの研究では、社会的技術移転（または MLP）に関するマルチレベルの視点が、分析フレームワークとしての力のコンセプトと組み合わされています。MLP は、複数のレベル、すなわちランドスケープ、体制、ニッチを区別します。MLP は、これらのレベル間の発展を通じてどのように移行が可能であるかを分析するのに有用である。(a) 景観レベルでの変化は、政体に圧力をかけ、同時にニッチの機会を提供する。(b) ニッチは既存の制度に挑戦できるようになるまで、市場環境を支配する「保護空間」として機能する。(c) 体制は現状を表し、不安定化がニッチが出現する機会を提供できる場合。しかし、MLP はエネルギーの移行を分析するのに有用であるが、権力の概念は、アクターの役割と、それが所持し、権力を持つ国のエネルギー移行経路に照準を当てる。ニッチ・イノベーションに直面する投資の制約を特定する上で、フィリピンの小規模で新興の再生可能企業への半構造的調査インタビュー。このデータの分析は、MLP と権力の概念に関する幅広い文献レビューと学術的な議論でさらに補完されています。

### 3. まとめと結論

1970年代の石油危機と1997年のアジアの金融危機の後の景色の進展と政府の弱い対応が相まって、EPIRA法の下で電力制度が自由化された。我々の調査結果は、「新しい電力市場構造」が政府から「エネルギーオリガルツ」への権力関係を変え、同時にニッチ・イノベーターに対する権力を強化することを示唆している。この相互作用がどのように敵対的であり、ニッチ・イノベーターを不利な立場に置いているかを示すために、特定のケースが、(i) 政策と政府レベル（ニッチ・イノベーター対政府）における投資の制約を示すために、(ii) 市場レベル（ニッチ・イノベーター対「エネルギー・オリザカー」）である。結論として、政府は、目標を設定し、俳優間の権力関係が多かれ少なかれバランスのとれた構造を作り、移行を管理するために政府が重要な役割を果たしていることを示しています。そうすることで、これは同様の持続可能なエネルギー目標を達成するための競争、おそらくは協力を促すことができる。